

第1回松本城・城下町写真エッセーコンテスト

努力賞 「松本城四季折々」 横山 英央



松本城 四季折々

横山 英央

松本城は、四季折々、繼りなす表情は豊かであり、いつも新鮮だ。

春、庭庭のシタレヤナギが、黄緑色の芽吹きを装うて、雨の風を呼び寄せる。公園一帯の桜が、畑邊の花を咲かせて、大勢の人が夜桜見物に訪れる。

初夏、「かおり風泉百選」に認定された大名町通りから、甘い香りがお城の公園に流れ込む。「なんだろう？」 散策する人々が、産物のペンチで窺く人がいふかる。シナノキの花だ。

芸術の秋。お城では、サイトウキネン合同演奏会が、著名な指揮者の下に、荘厳なシンフォニーを奏でる。

菊花展や、月見櫓の茅の調へと名月を眺めて、秋の夜長を楽しむ。

寒い冬。白装のアルプスを背景にした、里の松本城は、正に、かつて、偉人が言われたように、「数百年経ていても随る壮麗であり、高く、眺望快遊」である。

松本で育った私にとって、四季折々、松本城への親しみは、いわば空気のようなものである。

(二〇〇六・十一・九)

